

### 躍進が期待される町

熊本市の東方に隣接し、菊池郡の中では最も南の端にある菊陽町は、熊本県における空の玄関「新熊本空港」がある町として知られています。

昭和四十六年四月の開港以来、年間利用客数は急速に増加しており、さらに立地条件などからして現在の滑走路を三千メートルに延長、ターミナル施設などを整備することによって国際空港として飛躍することが期待されています。

また、菊陽町は内陸工業地区として紡績工場、醬油会社、自動車の車体製作所、製薬会社などの企業があります。

一方、都市計画地域の市街化区域が設定されたことと相まって住宅の進出が相次ぎ、中でも県下最大の住宅団地とされる県営武蔵ヶ丘団地が、昭和四十七年度から五カ年計画で千五百三十戸（菊陽町の中だけで）が建設される計画です。既に三百五十四戸が建設されており入居者による自治組織も結成されておりあります。

町ではこの団地に住む人々の福祉のため、小学校用地を購入して校舎の建設やプールの建設を終え、昭和四十九年四月一日から武蔵ヶ丘小学校として開校しています。なお管理棟、低学年舎、給食

室、体育館の建設も計画されています。

また地域の住民サービスのため役場支所を新築開所したほか保育所二カ所、幼稚園一カ所の建設計画もあり、昭和五十三年には人口約六千人のマンモス団地が完成することになります。

昭和四十七年三月に完成した菊陽町中央公民館約一、五七七平方メートルは役場のすぐ近くにあり、その三階建ての建物はなかなかスマーなものです。

一階は談話室、二階は図書室、調理実習室、視聴覚室、三階は研修室、講堂となっており、中でも二階の視聴覚室は九州でも指折りのものといえます。

さらに公民館に隣接して体育館も建設されており、両者とも青年団、婦人会、4日クラブなどによって活発に利用されています。

観光的には別府、雲仙を結ぶルートにあります。国道五十七号線の大津街道菊陽杉並木は、熊本県の郷土修景美化地区や熊日の新熊本三十六景にも選定されており、日本でも貴重な史跡といわれています。

藩政時代の大街街道は、現在の豊肥線線路を含めて幅員約四十メートルで、その両側には今でも約三百六十年前の植栽という杉並木が続いています。頼山陽は阿蘇方面へ向かう途中、この

杉並木の切れ目から熊本城を望みし、次のような詩を詠みました。

大道平々砥も如かず  
熊城東に去ればすべて青無  
老杉道をはさんで他樹なし  
欠くるところ時々阿蘇を見る。

当時、街道沿線には現在のように建造物もなく、鉄道も走っておらず、視界が広々と開けていたのでしょう。

この漢詩を刻んだ詩碑は三里木の先にひっそりと建っています。またこの街道から北へ約五百メートルのところ、俗称鉄砂小路とばれる堀川部落があります。現在では住宅の改築などにより、昔の面影はあまりなくなりつつあります。

もともと菊陽町は白川中流の純農村でしたが、昭和三十九年に新産都市の指定を受けてからは、工場誘致などにより所得の増大を図るため、農工併進を行政の柱として、住みよい町造りが進行中です。

即ち農業では昭和四十三年から第一次農業構造改善事業として圃場整備七十二ヘクタールを行うとともに、経営近代化施設として野菜集荷所一棟を設置、その他団体営圃場整備二百二十五ヘクタール、畑地灌漑五百三十二ヘクタールを実施中です。

本年度から五カ年計画で百一ヘクタールの湛水防除事業、昭和五十四年度までに二百十六ヘクタールの田畑圃場整備事業が計画されています。

また昭和四十八年度から五カ年計画の高エネルギー圃地整備計画により、米五百七十ヘクタールのうち五ヶ所、たばこ百四十六ヘクタールのうち二ヶ所、西瓜百五十ヘクタールのうち二ヶ所、茶百ヘクタールのうち一ヶ所の生産圃地を設定し農業経営の近代化を目指しています。

特に葉たばこは従来から主産地の一つで、現在百八十三戸が百四十一ヘクタールを、つまり一戸平均約七十七アールを耕作していますが、今年は生育期の日照に恵まれたこともあって増収が期待されています。

またプリンスメロンは昭和四十二年頃六十アールが試作されていた程度ですが、現在四十ヘクタールと増加し、前述の野菜集荷所で集荷、選別、主に京阪神方面に出荷され好評を博しています。酪農は現在五十七戸六百十五頭の乳牛が飼育されていますが、都市化する条件のもとで団地化による多頭飼育が計画されています。



▲国際空港として飛躍が期待される熊本空港



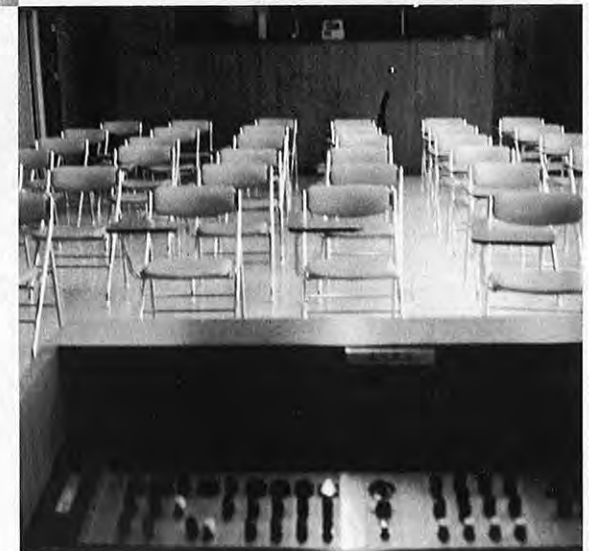
▼県下最大の住宅団地となる武蔵ヶ丘団地



▲頼山陽詩碑



▶紡績工場



▲菊陽町中央公民館視聴覚室